

熊本県 熊本県庁視察報告書

視察日 平成30年 5月15日

視察先 熊本県 熊本県庁

視察目的

熊本県の次世代施設園芸振興に向けた取り組みについて。



視察時の対応

推進方向

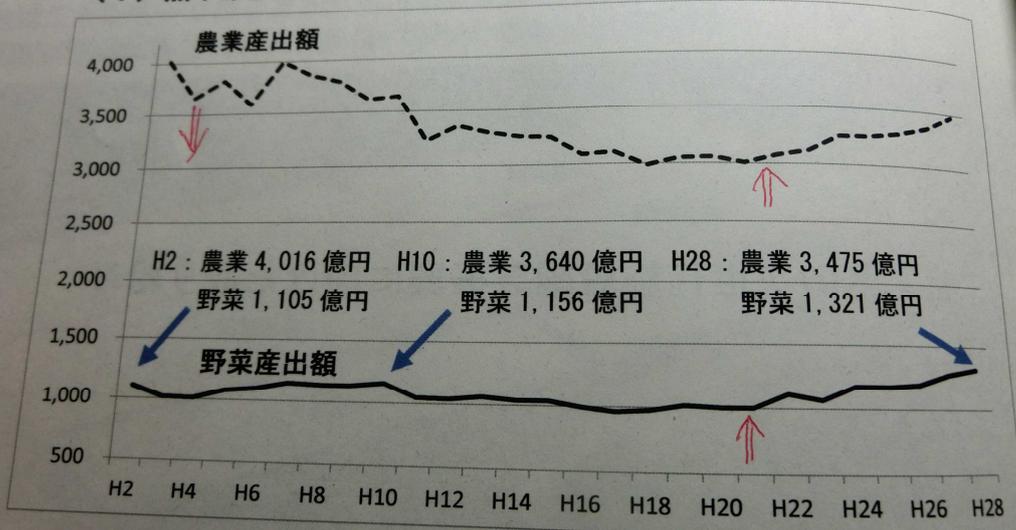
熊本県の野菜生産の主力は、トマト・なす等の施設野菜であり、野菜産出額の増大を図るには、施設野菜の生産技術の更なる向上が必要。更に、消費地が遠く、集荷量の60%を九州外への出荷は輸送コストが高い、農家の利益確保は生産コストの低減が必要であったことから。

熊本県の農業産出額と野菜産出額

下表に示すように、農業産出額は近年増加傾向であり、平成28年度の野菜産出額は1321億円となっている。

1 熊本県の農業及び施設野菜の現状

(1) 熊本県農業産出額と野菜産出額の推移



- 農業産出額 : 近年は増加傾向に転じる
- 野菜産出額 : H21年頃から増加傾向にあり、H28年産は初の1,300億円超

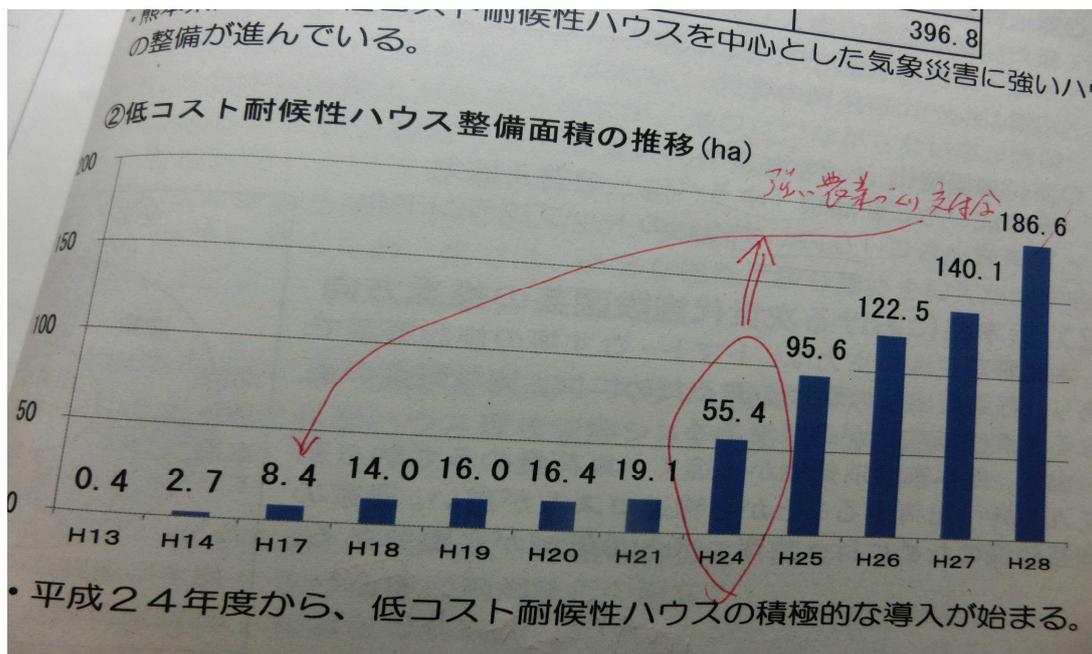
野菜産出額の品目別では、平成28年度トマト491億 なす108億の増大により、平成21年度1003億に比較し32億の伸びをみた。

推進方針

③低コスト耐候性ハウス整備の内訳

品目	棟数	面積(ha)	割合
トマト	402	108.6	58.2%
ミニトマト	132	31.9	17.1%
なす	100	24.2	13.0%
イチゴ	23	5.2	2.8%
すいか	28	4.5	2.4%
きゅうり	29	3.9	2.1%
メロン	19	3.0	1.6%
その他	56	5.4	2.9%
合計	789	186.6	100.0%

• 品目別では、トマト、ミニトマト、ナスを中心に整備が進んでいる。



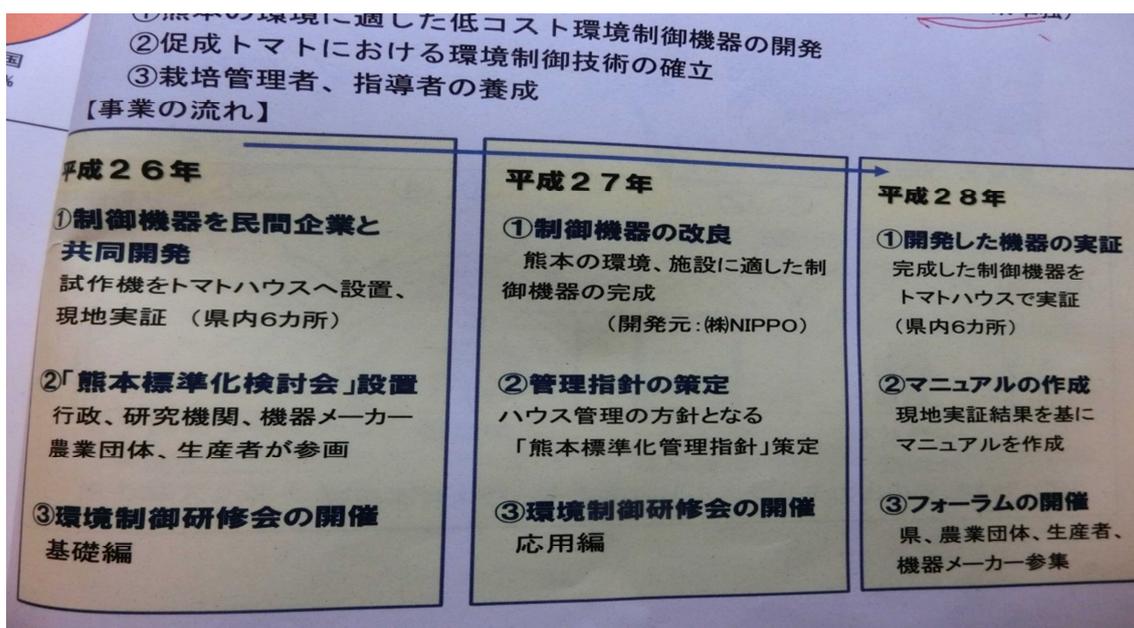
ハウス整備並びにハウス面施雲熊本県の農業産出額と野菜産出額

推進方針

- ・施設投資提言のために、低コスト耐候性ハウス導入
- ・ハウス整備に過不足のない低コスト環境制御機器
- ・溶液土耕システム

とりわけ環境制御システムを県の単独事業

【次世代型ハウス環境制御システム普及体制整備事業】 平成26年から28年



熊本県



後 記

熊本県管内の農協は地区ごとに熊本市(熊本市)玉名(たまな・大浜)鹿本(鹿本)菊地(菊地)阿蘇(阿蘇)上益城(かみましき)宇城(うき)八代(やつしろ)芦北(あしきた)球磨(くま)天草(本渡五和・あまくさ・れいほく)が有り今回の事業は、玉名管内と八代管内で各々3か所の実証実験の成果から、農家に普及し産出額の増加で販売単価は20年が366円/kgに対し28年は353円/kg推移しているが、通常の制御機器が500～1000万円かかるところを210万円にしたことでのコスト軽減効果となった。

所 感

冒頭この事業の研修として愛知経済連にて行ったとの事。熊本県が行った制御機器の利活用を当地区にも導入されれば効果は大きく期待出ると思料する。愛知県の農業産出額は平成27年度に於いては、3063億円全国8位で熊本の3348億円全国6位に及ばないも、製造品出荷額は昭和52年以降全国1であり、農業と工業がバランスよく発展したと言える。

本市は標高差を生かした農業が営まれており、新規就農者実績は23名(平成22～28年)と全国でも類をみない数であり、トマト・苺・茄子・ほうれん草・水稻・茶・菌床椎茸の栽培棟に就いており期待がもてる。

今後も全国の先進的な低コストシステムの導入状況を掴み、本市の農業の低コスト化に対応できる政策提案をして行きたい。

熊本県